

開 議

大沼 久議長 おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本日の会議に欠席の通告議員はございません。よって、ただいまの出席議員は定足数に達しております。

本日の会議は、配付しております議事日程第3号をもって進めます。

日程第1 市政一般に関する質問

大沼 久議長 日程第1、市政一般に関する質問を昨日に引き続き行います。

谷口栄子議員の質問

大沼 久議長 それでは、順次ご指名いたします。

初めに、順位5番、議席番号4番、谷口栄子議員。

(4番谷口栄子議員登壇)

4番 谷口栄子議員 おはようございます。

6月定例会に当たり、次の2項目について一般質問させていただきます。

質問に入る前に所感を述べさせていただきます。6月1日厚生労働省の人口動態統計で発表された1人の女性が生涯に産む子供の平均数(合計特殊出生率)は、2004年は前年に並ぶ1.29で予想を上回るスピードで少子化が進み、2年後には、人口減少時代が到来するという不安が発表されました。昨年の赤ちゃんの出生数

は、全国で111万1,000人で、前年より1万3,000人減少しました。山形県では9,921人で、前年より166人減少しているのです。長井市では248人で前年より20人減っているのです。生まれてくる子供の数が減ると将来の働き手も減少することになり、税金や保険料を負担する人が減ってきます。企業の活力が失われ年金などの財源も足りなくなってしまうのです。経済の面でも社会保障の面でも人々が安心して暮らすことのできない社会になってしまうのです。社会全体での価値観の転換が迫られているのです。

公明党では、少子化問題に早い時期から着目し、生活者の目線でさまざまな子育て支援策を提言してきました。例えば児童手当、都議会公明党の推薦で、東京都が昭和44年に独自の制度としてスタートさせた児童手当は、昭和47年国の制度として創設されました。制度創設を勝ち取った後も粘り強く政府自民党を説得して、支給対象年齢の引き上げを推進してきました。長井市においても公明党の掲げる政策の一つでも多くを実現してほしいと要望、努力しているところです。

子育て世代の皆さんに、長井市に住んでよかった。長井市は安心して子供を産み育てられるまちだと喜んでいただける環境づくり、子育て支援の拡充に真剣に取り組んでほしいと市長、当局に願うものです。

それでは、質問に入ります。

1番目は、心身ともに健康な子供を育てる食育について。

1、小中学生の食育について、ここ数年長井小学校や長井南中学校の入学式、卒業式に参加させていただき感じてきていること。子供たちの体型の差が気になっていることです。大きな個人差はどうして生まれてくるのか。充実した食生活は心と体を元気にします。健康を守ります。育ち盛りの子供時代、小学生、中学生こそ、正しい食事のとり方、食べ物の栄養について、

しっかり学んでほしいと思います。

全国的にも各学校でいじめがエスカレートし、切れやすい子供、問題行動を起こす子供がふえていることで共通していることは、乱れた食生活が上げられております。現代社会で食生活において簡単、手軽、便利を優先する大人が多く、子供たちの心と体が大きな影響を受けていると言われております。ダイエットのための栄養食品も多く販売されており、子供たちの体を守る食生活のあり方が将来にわたって心配されます。きちんと食べることの大切さ、それぞれの食べ物の持つ栄養素、それが体の中でどのような働きをし栄養となるのか。育ち盛りの子供の脳は豊かな食べ物で育つと言われております。鈴木雅子医学博士の著書に「その食事ではキレル子になる」、また、「キレない子に育てる食事メニュー」、さらに「子どもを変える食事学」などがあり、いらいらしたりすぐにかっとなったり、根気もなく、学校に行きたくないなど、共通しているのは、インスタント食品やファーストフード、スナック菓子や清涼飲料水で空腹を満たすだけの食事をしている子供に少なくないようです。

心や体の不調を訴える子供の半数は、朝食をとっていないとのデータがあるそうです。6月8日付山形新聞でも朝食をとらない中学生が2割を数えると、県の指導者研修会で報告されております。特に朝食をとらないと、脳のエネルギーとなるブドウ糖が不足し、さらにビタミン、ミネラルが不足するので、脳が栄養失調状態になってしまうと言われております。

また、砂糖の代謝には、ビタミンB₁が必要で、砂糖をとり過ぎるとビタミンB₁が不足することになり、体がだるくなったりいらいらします。感情をコントロールできなくなり、ちょっとキレル子とは、脳が栄養失調状態のことで、いらいら、キレル、だるいは、食生活が原因だと言われております。

心身ともに健康な子供に育てるために、楽しく学んで食べる食育について市長に伺います。

次に、市内の現在の子供たちの健康状況について伺います。

肥満、やせ過ぎ、生活習慣病など、今の日本は、好きな食べ物を好きなだけ、好きな時間に入る飽食と過食の時代となり、乱れた食生活は病気をつくる。つくる病気の低年齢化が心配されている。肥満、やせ過ぎ、生活習慣病等どのように長井市では対応されているのか。また、親子でクッキングの実習、食生活の見直し、学習は、健やかな心と体の育成に不可欠なものです。食育の取り組みについて、土曜ランドや夏休みなどにレインボープランの農産物、家庭でのしゅんの食材を利用して親子クッキングの開催も大切ではないかと思っております。

学校の栄養士さんや地域の食改の皆さんの協力をいただき、正しい食育の学習に取り組んでほしいと思います。

この2点については教育長に伺います。

次に、2番目の質問に入ります。男女共同参画社会のまちづくりについて質問いたします。

長井市では、平成14年12月に推進条例を制定しましたが、その後の計画状況が見えません。山形市では、平成10年9月男女共同参画都市宣言を行い、宣言文をもとに着実な推進、活動を展開されております。平成13年11月には「いきいき山形男女共同参画プラン」の実施計画を策定し、プランに掲げた具体的施策を着実に実行していくための指標があります。

平成14年に小学校3年、4年生を対象に、男女共同参画学習資料「きらり、かがやいて」を作成し、身近な生活の中から、テーマを決め、「一つ、いっしょにやろうよ。二つ、やりたいことは、なあに。三つ、家族ってすてき。四つ、ゆめをひろげよう。五つ、ささえて、ささえられて」を学校で学習した後に、家庭でも活用できるよう工夫され、教職用に小冊子も作成され

活用されております。

平成15年には、新体制の男女共同参画推進協議会をスタートさせ、印刷物を作成する職員用に男女共同参画の視点からガイドライン、小冊子を作成、「ちょっと手をとめて確認してみよう」を発行しております。男女に対する固定観念や無意識の中にある性差別に気づいてもらおうと優しい言葉やイラストで解説されているようです。また、年2回男女共同参画情報紙「ぶらーな」を企画調整部男女共同参画課で発行し、市民に配布、活用されております。「男女共同参画社会」は、どうしても女性に有利な社会を目指しているようにとらえられがちですが、そうした誤解を解くために、情報紙「ぶらーな」では、男性側の立場から考える男女共同参画を取り上げて、男性の過労死など取材、男女のバランスのとれた社会、ゆがみのない社会を目指すことも男女共同参画社会なのだと学ばれております。

長井市では、ここ数年、女性団体連絡協議会の皆さんが中心となって、男女共同参画講座「いきいきライフ」を開催されております。

特に昨年は、長井市が置賜地区の男女共同参画地域講座の開催地となり、女性団体連絡協議会の皆さんのご尽力で、11月21日生涯学習プラザで落語家林家染丸氏を迎え、講演をいただき、「女と男（ひととひと）いい関係」～共に支え明るい社会をめざして～が開催されました。

県からは男女共同参画センター（チェリア）館長の半田恵子氏が出席されました。県の男女共同参画条例は、平成14年7月2日に制定されております。県内に機運が高まることを期待されて県内各地で順次開催されているのがこの地域講座でした。

私も参加し勉強させていただきました。会場でアンケートが配布されました。回答の集計では、参加者、長井市から101名、白鷹町22名、飯豊町20名、小国町13名、南陽市12名、川西町

9名、米沢市8名、高畠町7名、東根市2名、新潟県より1名、未記入23名、計218名、参加された方の年齢は、20代1名、30代2名、40代9名、50代19名、60代129名、70代47名、80代3名。男女別では、女性198名、男性16名、無記入4名でした。

男女共同参画社会の実現のために何が必要に思いますかの質問では、女性の自覚と責任を上げた人が139名。社会慣習の改善、また、男性の自覚と責任、107名。子供のころからの男女平等教育、81名。職業上の男女平等、65名。家事育児の分担、51名。女性議員数の増加、42名でした。

年代別参加で50代未満の参加者が少ないことにびっくりしました。今後の取り組みの参考にすべきと思いました。

また、新庄市の市民アンケートの意識調査では、500名中243名の回答で、男性は女性より優遇されていると見る人が8割近くおり、社会通念や慣習、しきたりの見直し、是正等が求められていることがわかり、アンケート結果を提言書として新庄市長に届けられたと聞いております。

また、平成16年度版山形県男女共同参画白書など、これらのものを参考に長井市の目指す男女共同参画社会の取り組みについて市長に伺います。

次に、推進条例制定後の取り組みについてありますが、具体的施策や活動計画など、山形市のような取り組みを提案させていただきます。山形市では、いきいき山形男女共同参画プランをもとに、人権の尊重と男女平等の意識の確立。あらゆる分野に男女共同参画を推進。働く男女の真のパートナーシップの実現。健康づくりと自立のための支援と推進。みんなの力で計画の推進を掲げておられます。

長井らしさをどう盛り込んだ計画になさるのか企画調整課長に伺います。

また、見直し後の対応について、国は、今年度基本計画の見直しに入ります。現行計画の達成状況、評価を踏まえ、今後の計画の基本的方向、主な具体的取り組みを考えるために、中間整理を発表されました。2020年までに社会のあらゆる分野で指導的地位にある女性の役割が少なくとも30%になるように。国家公務員の採用拡大。女性の再就職、企業などの支援。女性研究者の積極的登用。防災計画作成への女性参加を上げております。

仕事と家庭、地域生活の両立支援、働き方の見直しを強調し、新たな取り組みとして女性の参画がおこなわれている4分野（科学技術、防災・災害、観光、環境）における女性の登用拡大、男女差を考慮した性差医療の推進。2015年までに教育学習面での男女格差の解消、男性にとっての男女共同参画、さらに女性専門外来など男女の性差に応じた医療の推進が盛り込まれております。防災計画作成への女性参加、災害現場への女性参加において、協働のまちづくりを目指す長井市では、昨年、市内各地に自主防災組織づくりが推進されており、女性も参加しつつあります。また、ことしは長井市にも女性消防団が結成されて活躍が期待されています。見直し後の対応について市長に伺います。

以上で壇上からの質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。（拍手）

大沼 久議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 谷口議員のご質問にお答えを申し上げます。

まず所感で、少子高齢化社会に触れられました。おっしゃるとおりだと思いますが、しかし、私は、悲観的な考えだけを持っているというのは違うのではないかと、ちょっと思っております。例えば、この少子高齢化社会の統計のとり方ですね。昭和35年、今からでいうと45年前の統計なんですよ、まだ。つまり昭和35年というのは高校進学率が60%、40%は金の卵として集

団就職で、私もそういう世代ですが、直接行かれて、しかしわずかな中から親に仕送りをしてきたというような、そういう戦後まだ15年しかたっていない、しかしようやく高度成長になりかけるという時代でありました。ちなみに大学進学率は10%。今は、高校進学率が97%、大学進学率は短大を含めれば50%、半分であります。したがって、働く人の概念も変わっていると。

当時、昭和35年当時は、15歳から55歳が働く人でありました。60歳を過ぎれば、農業でも隠居、いわゆる財布を渡すと、こういう時代であったわけではありますが、今は20歳を超え、22歳から大卒で働きますと、60で一たん定年にはなりますが、また10年働くんですね、これは。今の団塊の世代というのは、これから言われる昭和22年から24年、これが700万人と言われるように、しかし、私が21年ではありますが、前期と、それから後期の26、27年、またこれがふえておりますから、この皆さんを含めると1,200万人であります。働く人口がしっかりと決まっている人が約6,000万人、フリーター、ニート等を含めると8,000万人に近いのではないかとと言われる時代の中で、働く人の15%はこの四、五年で、社会に出られるわけです。もちろん仕事一筋でやってきましたから、やっぱり夫婦で旅行に行きたい、あれをしたい、これをしたいという方がいらっしやると思います。それはそれでやりますけれども、やっぱり社会とのつながりで、単なる晴耕雨読で、名刺に何の肩書もないというのについては抵抗がある皆さんであります。仕事優先できた皆さんであります。こういう皆さんは、恐らく一たん60であれしても、会社が定年を延長しようとしてもそれは嫌だと。一たん、3日ぐらいは会社でやっぱり今までの技術なりノウハウを生かしている。あるいはNPOで新たに働き始める。

この間、志木市長が、おととい市長会でお会いしましたら、彼は29歳から市議員になって

1期だけです、市長は。それを退職して今度NPOの理事長になるんですね。地方議員の皆さんのとりあえず研修のNPOをつくるんだと。それがもうすぐ認可おきるんだと、こう言っております。彼は地方議員で市議員から議長、それから県議員から県の議長、そして市長をやった方ですが、そういったいわゆる卒業してどんどん次のステップに行くという方が私はふえていく時代ではないかと。そのときには、米長邦雄さんの言葉をかりて言えば、70歳で笑える人生、70までは生き生きと健康でいられる。そして、働く人生というのが、私はこれからの団塊の世代の皆さんの共通項ではないかと思われる。

したがって、そういう社会で言えば、一たんやっぱり退職されて行く国内の旅行なんていうのは、ぐっと違ってくるであります。すばらしい景色なんていうのは、全国各地にあるわけですから、きのう、関口さんのテレビを見ておりましたら、旧大町から信越本線の旧街道を見たらすばらしいパノラマがありました。あるいは萩市から下関に行くところなんていうのは、南フランスのニースを思わせるようなすばらしい景色がありますよ。そういった景色は全国、日本に各あるわけですから、そういったところで行かれると、そういう時代に私たちは今いると。そして、ここ当面、四、五年、あるいは10年を見たら、やっぱり我々世代も、私自身もそうですが、団塊の世代でありますので、日本の社会をさらに私は発展させることができる可能性を持っている。したがって、悲観的にだけなる必要はないというのが私は堺屋太一さんと同じ意見であります。

そこで、食育についてですが、体型の差について、私から言うのもおかしいですが、25歳まで私は162センチで55キロ、理想的だったんですよ、小中高と。それからサラリーマンの3年間も。それはよく歩きましたしね。ところが、

代議士の秘書をしましてから、朝早いんですね。阿部さんは。朝、昼、晩、食って、夜、茶碗酒で座談会で、それで最後に味噌ラーメンを食うもんですから、毎年5キロずつ太って30になったら80キロになってしまった。もう落ちないですよ。でも、これは小さいときの食育を考えていえば、やっぱりそれは我々の長井市の1農村でありますけれども、理想的な食育であったのではないかと。個人の成長段階がありますから、しかし、おっしゃるとおり、3食しっかり食べる、そして、特に朝食は大事だということを、この間かな、ホットトークで述べたつもりであります、ここはやっぱりおっしゃるとおりで、ビタミンCがなくなって、ぼうとしていて、それがやっぱり学力の低下、読解力の低下につながっているのではないかと。食育は非常に大事なのではないかと。私を思っております。したがって、教育委員会等についてもぜひそういう食育についてもしっかりやってほしいというふうに指示をいたしておりますし、具体的には、頑張っているおっしゃると思いますから、教育長から答弁をさせていただきたいと思いません。

次に、男女共同参画社会についてありますが、これは、現在の取り組み状況とか、問題点等については、企画調整課長がすべての会議に出ておりますから、申し上げたいと思います。私は冒頭と最後は必ず行くようにしておりますが、大事だと私は思っております。さっきの話ではありませんけれども、まさに男女が分担をして支え合っていくということは、昭和35年と違うわけですから、ほとんど男性の働きで女性は内助の功という時代でありますから、これと全く違う今時代が来ているわけありますから、男女共同参画社会は非常に重要だというふうに思っております。

ちなみに私のところもそうでありますし、女房はまだ10年働きますから、私は10年ゆっくり

できると。そういうことを言うてはいけないわけではありますが、やっぱり家計を分担できるということは非常に人生にとって意味のあることではないかと。豊かになれることではないかというふうに思っております。

現在、国レベルで、平成12年に策定した男女共同基本計画が5年を経過しております、ご指摘のとおりであります。中間整理として次の11項目に絞って、この内容を深めていきたいということのようであります。

一つ、政策方針決定過程への女性の参加の課題。女性議員であるとか、女性の審議会委員であるとか。ちなみに長井は、6年前は7%でありましたけれども、今は30%を超えております。

2番目が男女共同参画の視点に立った社会制度慣行の見直し、意識の改革。男社会というのは、だんだん変えていかなければいけない。崩れてもおりますが。

3番目、雇用等の分野における男女の均等な機会と待遇の確保。これはなかなか抵抗もありませんが、しかし、これも進んでいると思っております。

4番、農山漁村における男女共同参画の確立。農村はもともと女性で支えられていたんですね。私のおふくろなんかは4時ぐらいに起きて、全員の飯炊いて、農作業も親父と一緒にやって、そして、しまいぶるまで働いてというのが、農村のおしんの時代以来からの現状であります。だから、それを見ているから、自分の娘は嫁にやりたくない。しかし、嫁はもらいたい。そうはいかんというのが今の時代だろうと思いますが、これはやっぱり農村の方も遠藤武彦さんが言うておられるように、やっぱりちゃんと家族で契約を結んで、それから働いた分について月幾らの月給とはいかなくても小遣いはちゃんと契約で出すというようなことをしなければいけないのではないかというふうに思います。

5番、男女の職業生活と家庭、地域生活の両

立の支援であります。これはもちろんであります。女性が働いているというのは、私でさえも片づけは私がやりますし、手があいていけば食器を洗いますし、それはすべて自分の身の回りは、出張時には下着から背広からネクタイから全部自分で買います。自分でやりますから、そうしないと、彼女はやっぱり働いているわけですし、私の分まで気を配れというのはそれはやっぱりわがままというものではないかと思っております、実践をしております。

6番目、高齢者等に安心して暮らせる条件の整備。これはもちろんであります。

7番目、女性に対するあらゆる暴力の根絶。ドメスティックバイオレンスですね。これは女性に対して、殴ったら逃げられると。これぐらいのことを思わなければいけないわけですから、ただ、向こうから枕が飛んできたときどうするかということもあります。

それから、8番、生涯を通じた女性の健康支援。これもやっぱり女性はある程度ありますよね。波があります。一時的にやっぱり非常に体調が50前後で非常に厳しいところがあるということですから、こういった意味での健康支援。

それから、メディアにおける男女共同参画の推進。これは山形新聞さんはやっけていらっやると思っています。

それから、10番目、男女共同参画を推進し、多様な選択を可能にする教育、学習の充実。女性の方がですね、男性が成績がいいなんていうのは我々の世代まででした、はっきり言って。女性、忙しかったな、恐らく、家庭なんかでも手伝わされて。今は、中学校、高校、7割、ベスト20が女性ですよ。東大、早稲田なんかというベストワンに女性が出てくる時代であります。これはやっぱりそれは認めなければいけない。男性も頑張らなければいけないし、女性が実に頑張っているということではないかと。海

外に留学したいというのも圧倒的に女性が多いそうですね、子女では。男の親が必死になってとめるけれども、全然言うことを聞かない。そういった意味では、やっぱり女性の今の意欲というものはすごいものではないかと。

11番が地球社会の平等、開発、敬愛の貢献。これは戦争をなくすということであります。あるいは戦争に巻き込まれない。戦争をしないということが最大だろうと思います。

12番目、新たな取り組みを必要とする分野における男女共同参画の推進。

以上、12項目について、私も審議会委員にでもなれば、もっともっと言えるんですが、その中で、新たな取り組みを必要とする分野等の中でご指摘の防災対策、これについては、家庭でも今は実際、家を運営しているのは女性でありますから、責任者は。それがやっぱり防災対策等について女性の皆さんの視点、ニーズ、これは本当に必要になってくると私は思います。

まだ、女性消防団は出ておりませんが、6月に6名の職員の皆さんに呼びかけまして、消防団員ができました。正規の消防団員ですからね。そういった意味では大変でありますけれども、やっぱり固定的な役割をなくして、女性の視点から地域の防災等を考える。また、中越地震で見られるような女性や高齢者の皆さんが多いため、今後の防災施策立案、実施、火災予防のための情報提供、啓発に女性の視点が必要だと。実は、中越地震に、これも公募をしたら半分女性が出てきたんです、市役所の中で。すごいことだと思いますね。3回に分けて女性が参加しましたけれども、これはそういった意味で、私はやっぱり長井は、相当根づいてきているのではないかと。さらにこれをしっかりと地域に根づかせる必要があるというふうに思っているところであります。

もちろん男女共同参画を進めるということは、市民一人一人の皆さんが能力が発揮できるまち

づくり、これが最高の目標でありますので、協働のまちづくりの大きな一つでありますから、審議会のご意見をちょうだいして、基本計画を年度内に策定していただき、計画策定過程において、一部の外部意見についても審議会の皆さんと相談しながらやっていきたいと思っております。

実は、女性の皆さんの審議会委員の皆さんは、議論百出なんですよ。あの審議会委員は。そして、今までのように、最初、冒頭2回、3回ぐらいで審議会の答申出してくれていったってだめだというのが去年の話でありまして、もっと議論を深めなければいけない。2カ月に1遍ぐらい五、六回やらなければいけないと、こういう話でありましたから、私はやっぱりそういった意味で、その皆さんの熱心さ、そして徹底的におやりになろうという意欲を最大限尊重して、しかし、そろそろ急がなければいけないのかなという時期でもありますので、長井市として特色のある方向性を出していきたいというふうに思っております。

残余の質問につきましては、教育長と企画調整課長から申し上げます。ありがとうございます。

大沼 久議長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 おはようございます。

谷口議員のご質問にお答えをしたいと思います。

食育の重要性については、谷口議員ご指摘のとおりだと思います。ましてや今年度からスタートする山形県の第5次教育振興計画のメインテーマでもあります命の教育の根底をなすものですから、大事にしなければならぬと考えております。

まず初めに、小中学校の食育の実態についてお答えをしたいと思います。

県教育委員会の声かけで全県的に行われている「心を育む学校給食週間」の中で、それぞれ

の学校の児童生徒の実態に応じて、食に関する指導を行っています。例えば和食のよさを見直そうとか、きょうの献立の栄養素はこういうものですよというような学校放送とか、また学校栄養士さんと呼んでの学習会などを行っています。また、学校の方では、先ほども申し上げましたけれども、学校栄養士さんと呼んで、それぞれの学校、バイキング給食があるわけですので、その事前指導とか、または全校集会とか学年集会、学級指導などで食に関する指導をしてもらっていますし、PTA研修などでも行っています。

昨年度は、学校栄養士、延べ20回ほど学校に出向いている状況です。その他、家庭科とか保健の教科、または総合的な学習の中でも食に関する学習を行っています。各学校の実態を見ますと、小学校で年間約10時間前後、中学校では20時間近く栄養とか食事のマナーとか、朝食の重要性、または生活リズムなどに関する学習をしています。学校の年間の総授業時数からすれば、決して少なくない時間だなというふうにとらえています。ただ、今のところ各学校とも学年ごと系統だった年間指導計画などはありませんので、各学校がこれまで実践してきた指導内容を整理し、内容が充実するように指導をしていきたいというふうに考えています。

私は個人的には、食育で大事なのは、学校での指導もさることながら、やっぱり親の意識であるというふうに思っています。子供たちの実態を見ますと、さっきも話ありましたけれども、朝食を毎日食べない子が小学生では約1割、中学生では2割近く。全く食べない子が2%前後あります。ひとりで食べる、いわゆる個食ですね、これが3割程度ですね。朝食に要する時間が約10分以内というデータ、市内のデータもあります。

それぞれの家庭、さまざまな事情があるわけですが、やっぱりさっき市長からあったように、

三度の食事を時間をかけてきちんと食べること、アレルギー体質の子もいますから、それは別として偏食しないことなどをやっぱり指導していく必要があるのかなというふうに思っていますし、しっかりした生活リズムを確立することが大事なんではないかなというふうに思います。

二つ目の子供の健康状況についてお答えをします。

長井市内の児童生徒の実態を見ますと、ローレル指数が160以上の太り過ぎの小学生が147名で約8.2%、中学生が58名で6.2%、ローレル指数が100以下のやせ過ぎが小学生22名で1.2%、中学生23名で2.5%となっていますが、中学生は、男女とも全国的な傾向から見れば、太り過ぎもやせ過ぎも少ない割合になっています。

小学生はちょっと男子の方、太り過ぎが多いかなという感じで、ほかの部分については男女とも全国的な傾向を示しているようです。

生活習慣病と言われる肥満とか糖尿病とか血圧が高いとか、または高脂血症とかについては、今学校保健法に血液検査の項目がありませんので、特別な場合養護教諭の方で、特別な場合というのは余り太り過ぎじゃないかなというような場合ですね、養護教諭の方で保護者の方に血液検査を勧めることがあります。実態は把握していないというのが現状です。

その対応についてですけれども、太り過ぎの子供の保護者に対しては資料を渡して注意を促している学校とか、または学校保健委員会で取り上げて、全保護者に啓蒙を図っているという状況です。

3番目の親子でクッキングの実習や学習をとということですが、共同調理場の方でも前にやっておったことがあったんだそうですが、今は夏休み期間中、ちょっと機械とか設備の改修なんかがあって、今は現在やめているという状況ですけれども、健康課の方で食生活改善推進協議会の事業として、年10回程度、親子栄養教室を

開いているようです。延べ200名を超える参加者があったということですし、公民館の事業や土曜ランド等でも料理教室があり、大変人気がある教室です。学校の方でも学年行事とか学級行事などで料理づくりをやっているところもあります。内容的にもただ料理をつくって食べるということだけでなく、食生活改善に向けた講話などもあるし、食育の一つでもある心の触れ合い、かわり合い、好ましい人間関係の育成という点でも大事な事業でないかなというふうに考えていますが、残念ながら事業の広がりをどうするかという問題があるんじゃないかなというふうに考えているところです。

以上です。

大沼 久議長 松木幸嗣企画調整課長。

松木幸嗣企画調整課長 おはようございます。

谷口議員の質問で、条例制定以降の取り組みなり、今後の計画づくりについてご説明申し上げたいと思います。

ご案内のように、平成14年12月に条例を制定させていただきました。それで、15年については、現在の第4次基本計画であります基本構想なり基本計画の議論をやっておりまして、この中で男女共同参画についての議論を高めてきたというふうに思っています。16年度でございますが、議員の質問の中にありましたように、置賜3市5町で男女共同参画講座というようなことを長井で開催させて、それに携わってまいったところでもあります。多くの市民の方にも参加いただいております。

男女共同参画推進審議会の開催状況であります。今まで3回ほど開催させていただきました。昨年の11月12日に初回の開会であります。第2回目には、12月になるんですが、県の男女共同参画の推進審議会の委員であります東北公益文化大の伊藤真知子先生にアドバイザーとして意見交換なり、委員の方の意見を少し土俵ならしするといいますが、共通事項を整理させていた

だいているというようなところであります。

第3回目になりますと、各委員の議論が本格化してまいりまして、取りまとめを順次進めているところであります。条例の中にもありますように、地域であるとか、社会であるとか、家庭であるとか、教育であるとかといった、それぞれのテーマで樹形図形式で取りまとめを今行っています。しかし、各課調整という部分もありますので、少し時間がかかっているところがあります。間もなくたたき台的なものをつくりまして、審議会の方でまた議論を進めていきたいというふうに思っております。

主に、今のところ審議会で議論になっているようなお話といたしましては、やはり少子化のを受けて、子供を預ける施設であるとか、やはり男女の能力が違うのを理解し合うにはというようなことなんかも出ていることも確かであります。特色的だなというふうに思うのは、やっぱり女性の健康をどうやって守っていくかというのが非常に多くの委員の方なり、経験を踏まえたところから出てきているお話かなと思います。この辺がいずれ長井らしさという部分にどういうふうに表現していくかというのが、この後の議論かと思っています。

また、庁内でも会議、プロジェクト的なものをつくりまして、3回ほど議論させていただいております。具体的に各職場でどうやっていくかというようなことがありますので、庁内会議を進めさせていただいております。

このような審議会の進めぐあいではありますが、今後の進め方なり計画づくりという話であります。現在、県の方、県の計画であります。山形大学の高木直先生、多分議員もご承知の方だと思んですが、この先生を中心に中間見直し、5月24日にスタートしたというふうにお聞きしております。県民の視点に立った計画の見直しということで、重点項目の絞り込みであったり、計画の中に数値目標を入れるというようなこと

をこれから議論していくというふうに聞いております。当方といたしましても県全体を抱えまず状況といたしますが、バックグラウンド的には夫婦共働きであったり、三世帯同居が高いというのは山形県なり長井市の特色でもあろうというふうに思っていますので、ぜひ県の中間的な見直しについて、どの部分が力を入れてくるかという部分については、注目しながら議論を進めていきたいというふうに思っています。

また、ご質問の中にありました県のチェリアの動きなり、山形市の取り組み、新庄市の取り組みであります。大変参考になる部分が多いなというふうに思っています。前段で申し上げましたように、今のところ審議会の中で、長井市らしさといいますか、長井の計画でこういった部分を前に出そうかという議論をさせていただいていますが、こういった各自治体の取り組みについては、全体計画をまとめていく中で、ある意味では補完させていただく。ある意味ではレベルアップさせていただくために参考にさせていただければなというふうに思っております。

また、山形市の広報活動といたしますが、パンフレットのお話も出ました。議員の方からは種々のパンフレットいただきまして、まことにありがとうございます。正直言いまして、長井市ではまだ取り組みが行っていないという状態かなと思っています。しかしながら、わかりやすいパンフレットづくりというのをどうやっていったらいいでしょうかねというのをぜひ審議会の中の議論でも検討していただきたいなというふうに思っています。

そんな感じを持っていますが、市長も申したように、一人一人の能力を発揮できるまちということでございますので、一体すてきなやっぱり生き方というのはどういうことがあるのかなというようなことであったり、これまでと違った視点でのつくり込みというのも一つ大切な部分であるし、重要な情報の出し方でもあるのかな

というふうなことを思っています。ぜひ長井市らしい個性的なパンフレットについて検討させていただきたいと思っております。

以上でございます。

大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 詳しい答弁、大変にありがとうございます。

市長の答弁の中に、見直し分の部分でたくさん項目が上げられました。その中でも長井市は協働のまちづくりで防災、災害に対する女性の登用、女性の活用というか、その分野をまず第一に、今後その順序として項目を上げていただいて、先ほど説明ありました分野に少しでも近づいていただきたい、長井市でも多くの分野で活躍する女性を出していただきたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

大沼 久議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 ご指摘のとおりだと私は思っております。

先ほど、やっぱり国のレベルというのは、非常に中間報告はまとまっていると思えますね。これはかなり網羅しているところだと思います。ですから、私も自分の考え申し上げましたが、これはもし会議に出れたら、出れなくとも私のやっぱり所感として、こういうふうに今長井市では、5の分野はこうだと、6の分野はこうだというようなことをちょっと申し上げながら、議論の参考にしていただきたいというふうに思っております。今後とも防災や地域、家庭を守るという意味で、女性の皆さんの参画をさらに拡大し定着していくというような視点で、消防団等の皆さんとも協力をしていきたいというふうに思っているところであります。

大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 これから基本条例ができた後に、いろんな計画ができてくるわけですが、めどとしては、計画の発表時期というのはいつになるのか、また、活動の拠点という

か、さまざまな事業がこれから展開されると思いますが、そのような点において活動の分野はどうなっていくのか、また市長にお願いいたします。

大沼 久議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 基本的に今年度で、ですから、来年の3月の議会には、さらに一歩進んだご提案ができるようにしたいと私は思っております。非常に委員の皆さんが熱心で、しかも長井らしさをどうするかということについて議論が百出しておりますから、報告を受けますと。そういった意味では、少し急いでいただくということにもなるかもしれませんが、なるべくやっぱり今年度にしたいというふうに思っています。

女性の会の皆さんが下重暁子さんのお話を聞かれましたですね。あの人は料理全然だめ、でも男性の方は料理大好き、大道寺議員と同じですね。やっぱり役割分担というのは別々あっていいと思いますね、固定的観念でなくてね。それで幸せだというふうに下重さんは言っておられるわけですから、やっぱりそういうことも踏まえて一人一人の能力が発揮できると、自分の好きなことがやれる、そして伸び伸び社会に貢献するというようなことを重点にしていだけたらいいなと思っております。

大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 先ほど企画調整課長の方からいただきましたけれども、わかりやすいパンフレットづくり、山形では「ぷらーな」というようなカラー刷の情報紙が配布されております。やはり目を通しますと、カラー刷ですのでわかりやすく、またいろんな市内で活動している方の紹介やら、また、新しく制定された条例、また、ドメスティックバイオレンスのような、そういう条例などに対しても詳しく説明が入って、本当に見やすいものになっております。ぜひこのような情報紙を考えていただきたいというふうに思います。

それには少しお金もかかるとは思いますけれども、市長の方にぜひ少しお金をかけていただいて、このような情報紙をお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

大沼 久議長 目黒栄樹市長。

目黒栄樹市長 必要なところには必要な予算を打つ。しかし、質実剛健というのが私の姿勢でありますので、質素で簡素な、しかも必要なものにはすべてお金というか、予算の配置はするということをして18年度以降は考えていきたいし、男女共同参画社会について、そういうご心配は要らないようにやれると思います。

大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

最後に、先ほど教育長からご答弁いただきましたけれども、ことし小中学校での食育の充実ということで、栄養士の方の活躍というのか、これから期待されるようです。ぜひ長井市ではどのような取り組みをなさるのか教えていただきたいと思っております。

大沼 久議長 大滝昌利教育長。

大滝昌利教育長 今年度から学校栄養士制度が学校教育法の改正で制度が導入されていますので、二人の学校栄養士の方が、この夏、栄養教諭の資格を取るために講習に行きます。栄養教諭の資格を取ればまたいろんな仕事が出てくるわけですが、各学校、または社会教育団体等と連携をしながら、食育に関する指導にできるだけ対応できるように検討していきたいというふうに思います。

大沼 久議長 4番、谷口栄子議員。

4番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

以上で質問を終わります。

内谷重治議員の質問